3章　ラテンアメリカ

添削課題

解答例

設問A

問1　ア－d　　イ－a　　ウ－b　　エ－c

問2　気温の年較差が最も小さいため赤道付近に位置し，緯度の割には気温が低いため海抜高度の高いアンデス山脈に位置するaとなる。(59字)

設問B

問1　カ－ペルー　　キ－ブラジル　　ク－チリ　　ケ－エクアドル

問2　アルコール（エタノール）燃料

問3　低地では熱帯作物のサトウキビ，バナナが，高度が上昇し気温が低下するにつれて自給作物のトウモロコシ，ジャガイモが栽培され，耕作限界を超えた高地ではリャマ，アルパカが放牧されている。(89字)

設問C

問1　エクアドルは一次産品，ペルーは軽工業製品や基礎金属の比率が高いが，ブラジルは金属製品，機械類など重工業製品の比率が高い。(60字)

問2　経済の自由化に伴い国営企業の自由化や外国資本の導入が進み，近隣諸国へ輸出を行う自動車などの付加価値の高い工業が発達した。(60字)

解説

《南アメリカの自然と産業》

設問A．問1．

前提として，「a～dは各国の首都」とあるので，aはエクアドルの首都キト，bはペルーの首都リマ，cはボリビアの首都ラパス，dはチリの首都サンティアゴとなる。

まず気温の年較差に注目すると，赤道付近の低緯度地域は年間を通じて太陽高度が高く，気温の年較差が小さくなる。よって，最も小さいイが，赤道直下に位置するaのキトとなる。低緯度に位置していながら気温が年平均約13℃と低いのはアンデス山脈に位置するためであり（標高：2,794m），そのことは問2で答えることになる。

また，気温の年較差が最も大きいアは4都市の中で最も高緯度に位置するdのサンティアゴとなる。降水量分布にも注目すると夏乾燥，冬湿潤のs型の降水量分布を示し，地中海性気候区（Cs）であることがわかる。中緯度の大陸西岸は地中海性気候区が見られ，チリ中部もその代表例である。

ウとエについては，降水量に注目する。年間を通じてほとんど降水が見られないウが沖合を寒流が流れ乾燥気候となっているbのリマ，降水の見られるエがラパスとなる。沖合を寒流が流れることで地表近くの空気が冷却され，大気が安定して上昇気流が起こりにくくなり，降水量は少なくなる。南回帰線付近に位置するアタカマ砂漠は代表的な海岸砂漠（寒流のペルー海

流の影響で形成）である。また，エは気温の年較差はリマと変わらないが，低くなっていることから，アンデス山脈のアルティプラノ高原に位置するラパスとなる。ボリビアの首都ラパスは，世界で最も標高が高い所に位置する首都（標高：4,058m，但し憲法上はスクレが首都）として有名である。

問２.

問われているのは，イをキトと判断した理由である。「判断した理由」を書く際には，資料から読み取ったことをもとに，判断した理由をまとめたい。①：気温の年較差が４つの中で最も小さいことから，赤道付近の低緯度地域にあると判断できる。②：しかし，緯度の割には気温が低いことから，アンデス山脈に位置し，気温逓減率によって気温が低下していると判断できる。湿潤大気の場合，100m 高度が上がるにつれ，気温は約 0.65℃低下する。年間を通じて平均気温約 13℃のキトは「常春気候」といわれる。

設問Ｂ.問１.

表１は重量ベース（万ｔ）での生産量であることに注意したい。農産物の重さが軽くなるコーヒーや綿花などは統計には登場しない。

まず最初にキは，４位に熱帯雨林気候区下の焼畑農業で栽培されるキャッサバがあることから，熱帯林のセルバが発達するブラジルと判断できる。また，１位のサトウキビは他の国でも見られるが，生産量が 41,101 万ｔと極端に多いことからも，世界第１位の生産国であるブラジル（42.7％：2010 年）とわかる。大豆も世界第２位の生産国（26.2％：2010 年）であり，生産量全体の規模が大きいことに気付けば簡単である。

クは，４位に地中海式農業を代表する作物のブドウがあることから，国土に地中海性気候区が分布するチリと判断できる。チリは国土が南北に細長い非等温線国家であり，気候が多様なため，１位に冷涼な気候下で栽培されるテンサイがあることもヒントとなる。

ケは１位にバナナがあることから，バナナの輸出世界第１位（2010 年）のエクアドルと判断できる。バナナの輸出（2010 年）は，第１位エクアドル，第２位コスタリカ，第３位コロンビア，第４位フィリピンであり，ともにアメリカ合衆国資本によるプランテーションで多く栽培されている。

カは，「新大陸」原産の代表的作物であるジャガイモ（２位），トウモロコシ（５位）があることから，これらの作物が自給用に栽培されている，アンデス山脈が国土を走るペルーであると判断できる。表中に，同じくアンデス山脈が走るボリビアがあることもヒントになる。

問２.

サトウキビの砂糖以外の利用方法としては，アルコール（エタノール）燃料が挙げられる。1970 年代の石油危機を受けて，エネルギー資源に恵まれないブラジルは代替エネルギーとしてサトウキビアルコール（バイオエタノール）生産に積極的に取り組み，エタノール自動車が早い段階から国営企業によって生産されている。現在，ブラジルはバイオエタノール先進国であり，燃料がエタノール 100％のエタノール車，ガソリンとエタノールを混ぜたものであるガソホール車（フレックス燃料車）が販売されている（軽油にエタノールを混ぜるディーゼル車もある）。

2002 年のイラク戦争以降，原油価格が高騰したことを受けて，ブラジルではサトウキビアルコール（エタノール）への転換に力を入れた。そのあおりを受けて精糖用に用いられるサト

ウキビが減少し，砂糖の国際価格が上昇した。
問３．
　問われているのは，ペルー東部のアンデス東斜面における土地利用，つまり農業の特徴である。農業は気候や土壌，地形などの自然条件の影響を強く受ける産業である。指定語句から，高度という自然条件が変化するにつれて，農業形態も変化することを書けばよいと判断できる。また表１のカがペルーであることと照らし合わせると，どのような作物が栽培されているのかもわかる。
「高度」が上がれば気温は逓減によって低下し，それに応じて，栽培作物が変化し，栽培の仕方も変化し，農耕の高距限界を超えると放牧になっていく。低地では，熱帯商品作物のサトウキビやバナナのプランテーションが開かれ，高地では自給作物のトウモロコシやジャガイモ，さらに農耕の耕作限界を超えた高地（アンデス山脈では 3,000 ～ 4,000m で高距限界を迎える）ではリャマ，アルパカの放牧が行われることをまとめればよい。
設問Ｃ　問１．
　問われているのは，エクアドル，ペルーと比較したブラジルの輸出構成の特徴である。輸出構成とは，どんなものが輸出されているかであって，表２を読み取るだけでよい。
　まず，エクアドルを見ると，「農産物」，「鉱産物」の比率がペルー，ブラジルに比べて高くなっている。これらは，まとめると一次産品である。代表的な「農産物」には，バナナ，切り花，コーヒー豆，砂糖，カカオ豆が挙げられる。とくにバナナの輸出は世界第１位（2010 年）であり，エクアドルの輸出品の中でも，原油に次ぐ第２位の 11.6％（2010 年）を占めている。また，代表的な「鉱産物」は，原油である。エクアドルは 1993 年にＯＰＥＣを脱退したが 2007 年に復帰しており，原油はエクアドルの輸出品の第１位で 51.2％（2010 年）を占めている。
　次にペルーを見ると，ブラジルとともに「製造品」の比率が高いことが読み取れる。しかし，内訳について見てみると，ブラジルが「金属製品・機械・輸送機器」の比率が高いのに対して，ペルーでは「食料品・飲料・たばこ」・「繊維」などの軽工業製品や「基礎金属」の比率が高くなっている。「基礎金属」は，金・銀・銅・亜鉛などがペルーの場合あてはまる。ペルーは銀鉱・鉛鉱・亜鉛鉱・金鉱・銅鉱・スズ鉱などの鉱産資源に恵まれ，セロデパスコなどが代表的な鉱山となっている。
　最後に，ブラジルについて見てみると，ペルーと同じく「製造品」の比率が高いが，「金属製品・機械・輸送機器」など重工業製品の比率が高いことが読み取れる。「金属製品・機械・輸送機器」は自動車，機械類が当てはまる。同じ「製造品」でも，ペルーと異なっていることを指摘しておこう。こうした輸出構成については，次の問題で答えることになる。
問２．
　問われているのは，輸出構成の特徴，つまりは重工業製品の比率が高い状況を生みだした近年における産業構造の変化である。輸出品目はその国の産業構造を反映する。ブラジル国内で近年，機械工業を中心とした工業化が起こったことをまとめればよい。
　近年の変化，というと，1990 年からの経済の自由化が挙げられる。これによって外国企業の直接投資や国営企業の民営化が進み，自動車産業を中心に輸出指向型の工業が発達した。経済の自由化には，関税率の引き下げや非関税障壁の廃止などの貿易の自由化のほか，「国家民営化計画」に基づく鉄鋼・電力・通信などの公企業の民営化や公的金融機関の民営化・外国銀

行参入の自由化，外国資本参入の規制緩和などの資本の自由化がある。

また，ブラジルは1991年，アルゼンチン，ウルグアイ，パラグアイとともにＭＥＲＣＯＳＵＲ（南米共同市場）を結成し（本部はモンテビデオ。2012年にベネズエラ＝ボリバルが正式加盟，ペルー・エクアドル・コロンビア・チリ・ガイアナ・スリナムは準加盟国，ボリビアは加盟手続中），域内での関税原則撤廃，域外共通関税の設定など決定した。

近年，ＢＲＩＣＳの１国に数えられるブラジルは，人口１億9836万人（2012年）を抱える国で，豊富な労働力が得られるだけでなく，経済発展が見込まれる国内市場の大きさも魅力であり，外国企業の進出が相次いでいる。とくに自動車産業の進出は活発で，日米欧の自動車企業が進出している。またＭＥＲＣＯＳＵＲやラテンアメリカ統合連合（ＡＬＡＤＩ）向けの自動車輸出も活発である。

解答では，経済の自由化によって，外国資本の進出が活発化し，ブラジルの産業構造が自動車などの付加価値の高い機械類へと転換したこと，そしてその輸出が近隣諸国向けを中心に伸びたことをまとめたい。

問題

【1】

解答例

問１　旧イギリス領で，プランテーション農園の労働力として導入された黒人の子孫が多く，公用語は英語である。(49 字)

問２　(1)　フィヨルド　　(2)　砂漠気候区

問３　(1)　コーヒー豆　　(2)　天然ゴム（カカオ豆）

問４　(1)　モノカルチャー経済　　(2)　鉄鉱石

問５　日本の入国管理法が改正され，ブラジルの日系人とその子孫の単純労働への就労が認められるようになった。(49 字)

解説

《ラテンアメリカ地誌》

表中のＡ～Ｅの国名の判断には，５地域の区分と併せて，Ａは輸出総額の大きさと原油，Ｂは輸出総額の大きさと大豆・航空機，Ｃは油かす・トウモロコシ，Ｄは原油，Ｅはボーキサイトに着目するとよい。

Ａがメキシコ（中央アメリカ），Ｂがブラジル（アマゾン川流域の熱帯地域），Ｃがアルゼンチン（南アメリカ南部地域），Ｄがコロンビア（アンデス地域），Ｅがジャマイカ（カリブ地域）をそれぞれ示している。

問１.

メキシコ以南の地域は，主にスペイン・ポルトガルのラテン系民族によって植民地支配をされたところからラテンアメリカと呼ばれる。その中において，カリブ地域に位置するＥ国，ジャマイカは，当初はスペイン領であったが，1670 年にイギリス領となり，1962 年に独立を達成している。そして，国民の 91.6％は黒人，6.2％はムラート（白人と黒人の混血）となっている（2001 年）。国民の大半は，イギリスがサトウキビやコーヒー豆などのプランテーション農園の労働者として連れてきた黒人奴隷の子孫である。公用語は英語だが，日常語は英語系のパトワ語である点が文化的特徴と言える。コーヒーの銘柄ブルーマウンテンはジャマイカ産のコーヒーである。

問２　(1).

南緯 40° 以南の地域のうち，太平洋側の海岸地帯には，フィヨルドが見られる。フィヨルドは氷河の侵食で生じたＵ字谷に，海水が浸水してできた地形である。

(2).

大西洋側アルゼンチンの南部地域パタゴニア地方の一部は，砂漠気候区が見られる。太平洋から流入する湿った空気が，アンデス山脈の風上側で上昇気流になり雨を降らせるが，山脈を越えると，乾いた下降気流となって雨が降らないため乾燥し，砂漠気候区となる。

問３　(1).

コーヒー豆の原産地（アラビアコーヒー）は，アフリカのエチオピアの内陸カッファ地方である。

(2).

アマゾン川流域を原産地とするプランテーション作物は天然ゴムである。天然ゴムの生産は，現在，ブラジル以外のタイ・インドネシア・マレーシア・インド・ベトナムなどアジアの熱帯地域で世界の約80％を生産している。

また，カカオ豆もアマゾン川流域を原産地としているが，アフリカのコートジボワール・ガーナ・ナイジェリア，アジアのインドネシアなど，アメリカ大陸以外の熱帯地域が主な生産国となっている。

問４　(1).

特定の一次産品（農産物や鉱産資源などをさす）を先進国に輸出する経済構造をモノカルチャー経済という。モノカルチャーは「単一耕作」を意味する。モノカルチャー経済の国では，特定の農産物や鉱産資源の生産量や国際価格の変動が，国の経済に大きな影響を与える。

(2).

Ｘは，Ｂ国のブラジルで輸出の多い鉱産物であるから，鉄鉱石である。ブラジルは，オーストラリアに次ぐ世界第２位の鉄鉱石輸出国（2009年）である。

問５.

1980年代後半，バブル経済を背景に，労働力不足を解消するため，外国人労働者の受け入れを望む経済界の要望を受け入れ，1989年に出入国管理法が改正された（1990年施行）。それによると定住者の在留資格が創設され，日系３世までの就労が可能となり，ブラジル・ペルーなど中南米諸国から多くの日系人とその子孫が日本へ働きにくるようになった。2011年現在，日本における登録外国人数で最も多いのが中国，次いで韓国・朝鮮だが，第３位がブラジル（約21万人），第５位がペルー（約５万2000人）となっている。

【2】

解答例

問１

⑴　フランス，イタリア，スペイン，ポルトガル，ルーマニア（モルドバ）

⑵　スペイン北部のバスク地方には少数民族のバスク人が居住し，独自の言語や文化を維持している。鉱工業が発展し，経済的には先進地域で自治権も与えられているが，中央政府への反発から独立運動も続いている。(96 字)

問２　ブラジルの国民は白人，黒人，アジア系，先住民のインディオなどから成り，混血も多く，様々な人種・民族の融合が進んでいるが，公用語は旧宗主国の言語ポルトガル語である。アルゼンチンの国民はイタリア系・スペイン系の白人が多数を占め，文化的にヨーロッパの影響が強く，公用語は旧宗主国の言語スペイン語である。(148 字)

解説

《ラテン系民族の分布》

人種は，人類を身体的特徴で区分した集団であり，コーカソイド（主にヨーロッパ・アフリカ北部・インドに分布），モンゴロイド（アジアを中心に分布），ネグロイド（アフリカ中部以南を中心に分布），オーストラロイド（オーストラリア大陸・タスマニア島を中心に分布）の４つに大別される。一方，民族は，言語・宗教・生活様式などの文化的特徴の共通性を基盤に結びついた集団をさす。ヨーロッパでは，コーカソイドは言語集団のインド=ヨーロッパ語族による民族集団の分類が一般的であり，主にゲルマン語派（ドイツ語・英語など），ラテン語派（フランス語・イタリア語など），スラブ語派（ロシア語・ポーランド語など）に分けられる。また，これらの集団は宗教にも共通性があり，ゲルマン系ではプロテスタント，ラテン系ではカトリック，スラブ系では東方正教を信仰する傾向が強い。

ラテン系民族は南ヨーロッパに多く居住するが，東ヨーロッパに多いスラブ系の中にラテン系の民族が分布する地域としてルーマニアが挙げられる（民族島の代表例）。

また，ラテン系民族の分布する地域は，南アメリカ諸国に見られ，アルゼンチンやウルグアイなどがヨーロッパから入植したラテン系住民の人口構成の多い地域であることも注意しておきたい。

本問は，ヨーロッパのラテン系民族が多い地域における様々な問題点を，地域格差，言語，民族問題などの視点から問う問題である。各国の問題点を挙げてみよう。

問１.

●スペイン

国内北部のバスク地方はフランスとの国境であるピレネー山脈の西部に位置し，同地方に居住するバスク人は，独自の言語と文化を持ち，誇り高く独立精神が旺盛なことで知られている。バスク人居住地はフランス南西部にも及び，この地を含めて完全独立を目指すバスク分離運動が民族主義者団体の ETA（バスク祖国と自由）を中心に展開されている。ETA は 1968 年から武装闘争を開始し，以来，脅迫や誘拐を資金源に一種のマフィアと化している。また，国内では経済開発の進行した首都のマドリードやカタルーニャ地方のバルセロナと南部のアンダルシア地方との経済格差も問題となっている。

●フランス

スペインと同様にピレネー地方に居住するバスク人の分離独立問題のほか，少数民族のブリトン人，コルシカ人とラテン系住民との対立が見られる。また，北アフリカのマグレブ諸国やトルコなどからの移民のイスラム教徒とカトリックとの対立なども存在する。

●イタリア

国内の経済の南北格差が問題となっている。イタリア北部はミラノ・トリノ・ジェノヴァを結ぶ三角地帯で工業が発展しているのに対し，南部は大土地所有制が残る生産性の低い農業が中心で貧困地帯となっている。経済格差を是正するために1960年代から南部開発（バノーニ計画）が行われ，タラントの製鉄所や高速道路のアウトストラーダデルソーレが建設され，格差の是正をはかっている。

●ポルトガル

国内北東部のスペインとの国境に接するミランダ・ドウロ郡などでは，ポルトガル語のほかに，ミランダ語も公用語として認められている。使用人口は1万2000人～1万5000人程度といわれ，総人口の0.2％にも満たない少数者の言語である。言語学上の近縁の言語としてスペインのカスティーリャ・レオン県の一部で使用されているアストゥリアス語があるが，スペイン国内では公用語として認められていない。ポルトガル・スペイン両国の少数言語の使用者に対する待遇の差が見てとれるが，スペインに比べ，ポルトガル国内では目立った民族対立も見られない。

●ルーマニア

国内の人口構成は約9割がラテン系のルーマニア人によって占められている。他の少数民族としてはマジャール人（ハンガリー人），ロマ人，ウクライナ人，ドイツ人などである。社会主義体制下においてはハンガリー動乱の際に国内に居住するマジャール人との軋轢が生じたものの，1990年代の民主化の進行によって，1996年にハンガリーとの間にルーマニア国内に居住するハンガリー系住民の権利保障などを定めた友好善隣条約を締結し，ハンガリーとの関係も改善されている。

問2．

●ブラジル

16世紀からポルトガルの植民地であったが，1889年に革命が起こり共和制に移行し，ポルトガルから独立を達成する。歴史的経緯からポルトガル語が公用語となるが，180以上の先住民族による言語集団が存在する。人口は1億9,836.0万人（2012年）で南アメリカの総人口の約半数を占める。ブラジルは，大量の外国移民を吸収してきたが，1960年代以降に移民は激減している。

植民期の約3世紀間は主としてインディオ，ポルトガル植民者，アフリカから奴隷として導入された黒人，およびこれらの人種間の交錯した混血によって形成された層（ムラートやメスチソ）から構成されていた。独立後の19～20世紀では移入人口の比重はヨーロッパからの白人系に移り，ブラジルの人口に占める白人の割合は高まった。とくに国内の南部から南東部の5州においてこの傾向が顕著である。この間にヨーロッパ系移民が定着したが，その多くはラテン・カトリック文化圏（イタリア，ポルトガル，スペイン）からの人々であった。また，この間に日本人を主としたアジア系の人々も入国している。人種・民族構成（2000年）を見ると，

白人 53.7%，褐色（混血）38.5%，黒人 6.2%，黄色（アジア系）0.4%となっており，先住民のインディオは総人口の 0.4%にも満たない。人口の地域的分布の特徴を見ると，白人系は南部で比率が高く，北へ行くほど低い。

●アルゼンチン

ラテンアメリカ諸国の中では例外的に白人の比率が高く，総人口 4,111.8 万人（2012 年）のうちのほとんどが白人（97%）である。こうした独自の人種構成が形成された第一の要因は，スペイン人の渡来前からこの地域にはインディオの人口が少なかったことである。インディオの文明は主に山間高地帯に発展し，パンパのような低地の平原は，少数の遊牧・採集民が散在するだけの未開の地に留まっていた。第二に，スペインの植民地時代に貴金属を産出せず，砂糖などの熱帯農業もあまり発展しなかったアルゼンチンでは，インディオや黒人の労働力に依存することが少なかったためである。第三の要因は，こうした状況の下で 19 世紀後半以降，イタリア，スペインなどから大量の移民が流入したことである。ヨーロッパ移民の大量流入は，社会構造や文化の在り方を規定してきた。外国移民の多くが都市部に定着したので，早くも 1914 年には都市人口が 53%に達し現在も 92.5%（2011 年）と都市化の極めて高い国になっている。また，外国移民は上昇志向が強く，早くから中産階級が高い比率（1914 年に 29.9%）を占め，現在でも 45%程度と推定されている。さらに外国移民の上方移動は社会的流動性を高め，今日でも下層から中産階級への移動は比較的容易である。しかし，その反面，中産階級から上層階級（主として地主層）への移動が難しく，ここに社会的流動性の限界があり，大土地所有制の残存といった問題も抱えている。

文化面でもヨーロッパの移民の影響は大きく，社会全体に西欧的雰囲気にあふれている。宗教の面でも，西欧のカトリシズムがそのまま受容され，他の国々に多い土着宗教とのシンクレティズム（混淆（こんこう））は見られない。

以上のような両国の特徴を踏まえて，解答を作成する際に注意しておきたいことをまとめておこう。

・文化的特徴…ブラジルはラテンアメリカで唯一ポルトガル語を公用語とするのに対し，アルゼンチンの公用語はスペイン語である。また，ブラジルの大都市は一般に近代的景観を持つのに対し（首都のブラジリアは計画都市），アルゼンチンの首都ブエノスアイレスはヨーロッパ風の街並みを持ち「南米のパリ」と呼ばれるように，両国の文化には明確な差異がある。

・民族的特徴…ブラジルの人種・民族の構成は多様で「人種のるつぼ」と呼ばれるのに対し，アルゼンチンは全人口の 97%が白人によって占められる。

他には，一般にラテンアメリカの社会では，人種・民族に対する偏見は少ないが，貧富の差は激しいことなども覚えておきたい。

4章　オセアニア

添削課題

解答例

問１　記号：Ｂ　　形成原因：火山，サンゴ礁

問２　記号：Ｆ　　島名：ニューカレドニア島

問３　海峡名：マラッカ海挟

理由：中東の原油を東アジアに送油する最短の海上航路で，タンカーなどの航行が多いため。

（39 字）

問４　変化：海水温が平年より数度上昇する。（15 字）

現象名：エルニーニョ現象

問５　寒流による氷山の浮遊と強い偏西風により，海上が恒常的に荒れて航行が困難である。

（40 字）

解説

《環太平洋地域》

太平洋を取り巻く地域に関する地誌問題である。なお，地図中の記号が示す地域は，Ａは南鳥島（1.2㎢・日本最東端：東経 153° 59′・北緯 24° 18′），Ｂはミクロネシア連邦（700㎢），Ｃはキリバス共和国（730㎢），Ｄはトンガ王国（750㎢），Ｅはハワイ諸島（1.7 万㎢），Ｆはニューカレドニア島（18,575㎢），Ｇはイースター島（チリ領・118㎢：ポリネシアの最東端：火山島：ペルー海流の影響で珊瑚礁はない），Ｈはマラッカ海峡，Ｉはガラパゴス諸島（エクアドル領・8,010㎢：地名はスペイン語で「海亀」の意味），Ｊはドレーク海峡である。

問１.

設問文にある太平洋の「３つのネシア」のうち，ミクロネシアは，経度 180° より西側の，ほぼ赤道の北側の範囲をさす。ミクロネシア連邦はＢに位置し，1986 年にアメリカ合衆国の信託統治領から独立した国である。Ｃはキリバス，Ｄはトンガを示している。

太平洋に散在する島々は，大洋底から直接そびえ立つ火山島や，浅い海底に形成されたサンゴ礁の発達により形成されたものが多い。前者の例にはハワイ諸島やグアム島，後者の例にはマリアナ諸島やマーシャル諸島などが挙げられる。

問２.

ニッケル鉱の産出量の多い島は，Ｆに位置するニューカレドニア島である。1853 年以来のフランス領ニューカレドニア（18,576㎢）は，ニューカレドニア島と同島の南東沖のローヤルティー諸島から成る。ニューカレドニア島の鉱産資源の開発には，日本からの入植民（1892 ～ 1919 年）も貢献した。1774 年に到達したクックが，故郷にちなんで島名を命名した。鉱山労働者にはインドネシア人やベトナム人が多い。フランスからの独立を要求する民族運動が，先住民であるメラネシア系のカナク人の一部に見られる。

問３．

マラッカ海峡は，インド洋のアンダマン海と太平洋の南シナ海とを連結し，マレー半島とスマトラ島との間の海峡である。海峡の総延長は約 800㎞，幅は 60 ～ 500㎞あり，ヨーロッパ，アフリカ，中東地域と東アジアとを結ぶ幹線航路である。但し，海峡の途中には水深約 20m のワン・ファソム・バンクがあり，マンモスタンカーの通行の難所であり，中東の石油を日本など東アジアに輸送する大型タンカーの多くは，バリ島とロンボク島との間のロンボク海峡を航行する場合が多い。

マラッカ海峡は，中東の原油を日本，韓国，中国などの東アジアの国々に輸送するタンカーの最短航路として重要な航路であるとともに，アジアとヨーロッパを結ぶ貿易航路としても重要な航路である。先に述べたように，大型船舶の航行の安全性に問題があることから，30 万ｔ級以上のタンカーはロンボク海峡を航行するが，近年では原油供給過剰により大型タンカーの就航が減少し，日本に送油するタンカーの大半はマラッカ海峡を通過する。

問４．

ペルー沖から赤道付近の東太平洋にかけて，海水温度が数年に一度，通常の水温より異常に上昇する現象をエルニーニョ現象と呼ぶ。エルニーニョ現象は，寒流のペルー海流が流れる沿岸国のアンチョビー（カタクチイワシの一種）漁に打撃を与えるとともに，世界各地の異常気象を引き起こす原因になっている。エルニーニョ現象の原因としては，貿易風が弱まり，ペルー海流の北上がペルー北部付近で止まり，赤道反流が南下するためという説もあるが，詳細はわかっていない。

エルニーニョはスペイン語で「男の子」の意味であるが，エルニーニョ現象が 12 月下旬すなわちキリスト誕生と同じころに発生する場合が多いことから名付けられた。

問５．

Ｊはドレーク海峡であるが，解答では海峡名を答える必要はないので，解答する際にはマゼラン海峡を想定して解答してもよいだろう。ドレーク海峡は，オルノス岬（ホーン岬）とサウスシェトランド諸島との間にあり，幅は約 725㎞，最大水深は 450m の海峡である。強い偏西風が吹きつけるため，古くから航海の難所とされていた。海峡名は，海峡を発見したイギリスの航海者ドレークの名前に由来する。

マゼラン海峡は，南アメリカ大陸南端のブルンスウィック半島とフエゴ島との間にあり，1914 年にパナマ運河が完成するまでは太平洋と大西洋を結ぶ重要な航路であったが，パナマ運河開通後は航路としての重要性は失われている。1520 年にマゼランの世界周航船隊が初めて通過したマゼラン海峡は，長さは約 560㎞であるが，幅は３～ 32㎞で狭い。東の一部がアルゼンチン領のほかは，大部分がチリ領である。

マゼラン海峡は，氷河の発達した山地が海岸（氷山が浮遊する場合がある）に迫り，フィヨルドの海域のため水路は狭くて深く，複雑に入り組んでいる。ツンドラ気候区の地域に接し，寒流（フォークランド海流）の影響により年間を通して冷涼で海霧が多く発生する。また，マゼラン海峡西部は偏西風による強風が吹きつけて荒波となり，東部は大きな潮差と速い海流に見舞われ，航行に多くの困難を伴うため航海上の世界有数の難所といわれている。

問題

【1】

解答例

問１　アルミニウム精錬に必要な電力の安価な地点に立地している。(28 字)
　　ボーキサイトの搬入や製品の輸出に便利な港湾に立地している。(29 字)
問２　ア－石炭　　イ－石炭　　ウ－水力

解説

《アルミニウム工業の特色》

アルミニウムの原料はボーキサイトである。ボーキサイトはシリカと珪砂を含む赤色の鉱物で，熱帯地域に卓越するラトソルの見られるラテライト層に多く埋蔵している。ボーキサイトは，赤道を中心に南北約 20 ～ 30° の緯度帯に分布しており，ボーキサイト産出国は世界で約 20 カ国である。

ボーキサイトを精錬してアルミナ，アルミナを精錬してアルミニウムが生産される。アルミニウムの精錬には電力を大量に消費することから，アルミニウムは「電気の缶詰」と呼ばれており，アルミニウム工業は電力立地（動力立地）型の特色を持つ工業である。

アルミニウムは軽量であり，強い耐食性を示し，加工が容易であり，熱や電気の伝導性に優れている。合金化すると，物理的な強度が増加する性質があり，現在では鉄に次ぐ重要な金属である。アルミニウムの需要は，アルミ圧延品用は缶材やエアコン向け，アルミ鋳物用は自動車のエンジンや車体用，アルミ電線用は超高圧送電線など多方面で利用されている。

ボーキサイトの産出量（2011 年：２億 5,900 万トン）において，世界第１位はオーストラリア（6,997.6 万 t，27.0％）である。第２位は中国（17.4％），第３位はインドネシア（14.3％），第４位はブラジル（12.3％），第５位はインド（7.3％）となっており，上位５カ国で世界の産出量の 78.3％を占めている。産出国としては，ギニアとジャマイカも押さえておきたい。なお，オーストラリアのボーキサイトの主要鉱山は，ウェイパ，ゴヴである。

アルミニウムの生産量（2010 年：4,080 万トン）における主要生産国の世界比率は第１位中国（39.7％），第２位ロシア（9.7％），第３位カナダ（7.3％），第４位オーストラリア（4.7％）第５位アメリカ合衆国（4.2％）である。

アルミニウムの輸出量（2011 年：2,136 万トン）は第１位ロシア（26.1％），第２位カナダ（11.6％），第３位オランダ（8.9％），第４位オーストラリア（7.9％），第５位ノルウェー（6.7％）である。

上記の統計から，アルミニウム工業におけるオーストラリアの影響力が大きいことがわかる。

問１.

オーストラリアの地図に示された都市は，ア（グラッドストン），イ（カリカリとニューカースル），ウ（ベルベイ），エ（ポイントヘンリー），オ（ヴォーナンブール）である。

これら５カ所の共通点は，①アルミニウムの精錬に必要な電力を安く発電できる地点に立地している，②ボーキサイトや中間原料であるアルミナなどを搬入しやすい港湾付近に立地している，以上の２点である。

問２.

一次エネルギーとは，自然から獲得した自然物を素材としてそのまま利用して得られるエネルギーのことである。原油（石油），天然ガス（LNG），石炭，木炭（薪炭），水力，風力，波力，太陽熱，地熱などが１次エネルギーの代表である。地図中の都市アとイは，ともにグレートディヴァイディング山脈東麓の炭田地帯の近くに立地しており，鉄道で輸送される石炭を利用しての火力発電により，アルミナやアルミニウムの精錬を行っている。都市ウは，タスマニア島の北にあるベルベイである。タスマニア島（タスマニア州）の電力は，グレート湖（タスマニア島最大の湖，オーストラリア最大の淡水湖）の水力を利用するポアチチ水力発電所に代表されるように，発電コストの安い水力発電に特色がある。ベルベイでは，第二次世界大戦後にマレーシアからボーキサイトを輸入し，地元の安価な水力発電の電力を利用してアルミニウムの生産を開始した。現在では，地図中のアのグラッドストンからアルミナを搬入して，アルミニウムを精錬している。

【２】

解答例

問１　Ａ－シンガポール　　Ｂ－マレーシア　　Ｃ－タイ

問２　通貨危機によってアジア諸国の通貨が下落したためオーストラリアドルの価値が上昇しアジア諸国からの輸入は増加したが，輸出は各国の経済の混乱により低下した。(75 字)

問３　両国とも積極的な外資・技術の導入を行い，国内の豊富な低賃金労働力を利用した輸出指向型工業化が進行した。Ｂ国では電気・電子機械工業の集積がみられ，先進国から部品を輸入し国内で組み立てた製品を先進国に輸出している。Ｃ国では自動車産業が集積しており，周辺諸国との分業体制が確立し完成車の組み立てが主体となっており，アジア諸国や先進国への輸出も増加している。(175 字)

問４　オーストラリアは農産物や鉱産資源などの一次産品を輸出し，工業製品を輸入する途上国型の貿易構造に近い。広大な土地や豊富な資源を有するが，国内市場が狭いことや輸送費・労働費の高さが工業活動の条件を悪化させている。就業人口では第３次産業が中心となっている。(125 字)

解説

《オーストラリアと東南アジア》

問１.

Ａはシンガポールである。他国に比べて貿易額が大きいことや，オーストラリアのＡに対する輸出品目の大半が資源や食料であるのに対し，Ａ国からの輸入品は精油やコンピューターが大半を占めている。シンガポールは隣国のマレーシアから原油を輸入することによって石油化学工業や石油精製が発達している。シンガポールの輸出品目（2010 年）を見ると，電気機械（40.5％）・石油製品（15.7％）・一般機械（7.1％）・化学薬品（4.0％）・精密機械（3.0％）となっており，ＡＳＥＡＮ諸国の中でも工業化の進展している国であることがわかる。

Ｂはマレーシアである。オーストラリアがＢ国から輸入しているものを見ると，原油とコン

ピューターや集積回路が多いことに気がつく。マレーシアはインドネシアやブルネイ=ダルサラームと並んでＡＳＥＡＮ諸国の中で有数の産油国であるが，1980 年代から外資・技術導入を前提に国家主導の工業化政策によって労働集約的な電気機械工業やコンピューター関連産業が発達した。現在のマレーシアの輸出品目（2010 年）は電気機械（39.1％）・パーム油（6.2％）・液化天然ガス（6.0％）・原油（4.9％），石油製品（4.0％）となっている。

Ｃはタイである。オーストラリアがＣ国から輸入しているものでＡ，Ｂと比べて目立つのは自動車と加工海産物であることから判断ができる。タイも他のＡＳＥＡＮ諸国と同様に 1980 年代に輸出指向型の工業が急速に発達し，自動車産業や電気・電子機械工業，食品加工業などが発達した。現在のタイの輸出品目（2010 年）を見ると，電気機械（24.4％）・自動車（9.5％）・一般機械（7.3％）・天然ゴム（4.0％）・石油製品（4.0％）となっている。これら３カ国の総輸出金額を見ると，シンガポールが 3,519 億ドルと多く，マレーシアは 1,988 億ドル，タイは 1,954 億ドル（2010 年）となっており，シンガポールの経済規模が大きいことも注目しておきたい。

問２．

経済状況の変化を読み取る資料解析の問題である。表１を見ると，オーストラリアとマレーシア，タイ，インドネシアの貿易構造は 1997 年までがオーストラリアの輸出超過，1997 年以降はオーストラリアが輸入超過となっていることがわかる。一般に２国間の貿易関係においては，一方の国が輸入超過になる原因として他方の国に対しての通貨価値の上昇が考えられる。例えば，円安は輸出には向くが，円高は輸出に不利に働き，輸入には有利になるという通貨と貿易の相関関係がわかればよい。日本は石油危機以降も欧米市場への輸出を伸ばし，膨大な貿易黒字を抱えることになり，貿易摩擦が生じた。この経済的な状況を受けて先進諸国が採用した通貨政策が，自国の通貨に対して円の通貨価値を上げる円高政策であった。この政策は 1985 年のプラザ合意以降採用され，日本の輸出が大きな打撃を受けたことは地理受験生としては当然知っておくべきことである。

アジア諸国の工業化の背景には自国の安価な労働力と先進国からの資金・技術導入が挙げられるが，自国の資本の蓄積力が弱い場合は多額の外国資本に頼る傾向が強くなり，それが累積債務の増加となって財政負担の増加をもたらす。ＯＤＡ（政府開発援助）も融資によるものであれば，債務の返済のために財政支出が圧迫される。当然，そのような経済状況にある国の通貨は価値が下落することになる。以上のような背景で発生したのが 1997 年のタイのバーツ危機であり，周辺諸国にも伝播し，「アジアの通貨危機」という状況が発生した。アジア諸国の通貨は米ドルだけでなく各国の通貨に対しても通貨価値が下落し，オーストラリアドルはアジア諸国の通貨価値に対して上昇したため，従来よりも安価に相手国からの輸入が可能になった。その傾向が表１でも見て取れるだろう。

問３．

一般に貿易品目は一国の産業構造の特徴を表すものであり，一次産品の輸出が多い発展途上国型と，加工品の輸出が多い先進国型とに分けることができる。また品目を詳細に見ていけば，その国の産業構造の経年変化も知ることができる。表２，表３は 2004 年度におけるオーストラリアとアジア諸国との貿易関係を示しているが，Ｂ国（マレーシア）からの輸入品ではコンピューターと集積回路，Ｃ国（タイ）からの輸入品では自動車が特徴的なものである。前問の解説でも指摘したように，アジア諸国の工業化は国内の豊富な低賃金労働力を利用した輸出指

向型の工業化政策を採用した国が多いが，輸出品目に差が現れているのは，その国の経済戦略の特徴を示していると考えてよいだろう。

マレーシアでは先進国からの電気機械製造業の企業が進出したため，国内の低賃金労働力を利用した労働集約的な製造部門が発達してきた。近年では，道路交通網や情報通信網などのインフラストラクチャーの整備によってＩＴ関連の先端技術産業の開発を目指す国家的なプロジェクトである「マルチメディア・スーパー・コリドー」が進行している。世界各地からハイテク企業が集まり，コンピューターや集積回路などのエレクトロニクス関係の先端技術産業がサイバージャヤなどの都市を中心に発展するようになった。またマレーシアでは国産の自動車を国民に向けて開発・販売する国民車構想をとり，プロトンという複合企業が中心となって自動車の生産をしている。

これに対してタイは，自動車関係の関税を引き下げ，自国企業による自動車生産にこだわらない政策を採用したため，先進国からの自動車関連企業の進出が進行した。とくに日本の自動車メーカーはタイの周辺諸国（マレーシアやインドネシア）などで生産された部品をタイで組み立てて完成車とし，ＡＳＥＡＮ諸国や他の地域にも輸出をしている。そのためタイは東南アジアの自動車産業の拠点となり，オーストラリアへ対する輸出も増加している。

問４.

オーストラリアの産業構造と就業構造の特徴を問う問題である。地理的な観点からいえば，産業構造の高度化（より付加価値の高い産業分野へ一国の経済が移行すること）は同時に就業構造にも変化をもたらし，より収益性の高い産業分野へ労働力も移行していくはずである。2010 年度のオーストラリア全体の貿易の輸出品目をみてみると，総輸出金額は 2,124 億ドルで，鉄鉱石（21.3％），石炭（18.7％），金（6.3％），原油（4.5％）液化天然ガス（4.1％）となっており，一次産品の輸出が主体となっていることがわかる。これに対して総輸入額（2010 年）は 2,016 億ドルで，電気機械（15.1％）・自動車（12.5％）・一般機械（10.3％）・原油（7.7％）となっており，工業製品の輸入が多いことがわかる。

オーストラリアの産業は広大な土地で行われる企業的農牧業や，東部の古期造山帯からの石炭，西部の安定陸塊からの鉄鉱石・金鉱などの鉱業が主体である。労働生産性の高い企業的な農牧業は国際市場においても競争力が高いが，鉱工業の分野では国際競争力が高いとは言い難い。まず，資源産地と工業都市が遠距離であるため国内の輸送コストが割高となり，白人主体の社会で労働者の賃金水準も高いため，鉱産資源は産出地近隣の港湾から未加工のまま一次産品として輸出する傾向が強い。そのため，他の先進国に比べると工業化という点では遅れをとっている。